

緑地新聞

4

2018年12月発行

作ろう緑から、繋げた縁はこれからも



地域交流・木工体験会を実施

Feel green nature,
Make green culture.

十一月十一日(日)、竹の活用による地域交流を目的とした、近隣小学生・保護者との竹炭づくり・木工体験活動を行いました。

まずは、竹炭と花炭作りです。竹炭作りでは、ドラム缶炭焼き窯の火付け体験を行いました。煙突から煙がたくさん出るまで、杉の葉や新聞紙、竹を窯の中に入れてうちわで扇ぎます。子ども達は、煙を浴びて涙が止まらなくなりましたが、負けずに頑張っていました。次は、焼き芋作りです。さつまいもを洗い、新聞紙とアルミホイルで包み、炭焼き窯の上にかぶせてある砂の中と花炭作りで使用した窯の中に入れて待ちます。

花炭や焼き芋が完成するまでは、各々が「竹の伐採」や「工作」等から、好きな体験メニューを選んで参加しました。「工作」では、伐採した竹を使ったペン立てや緑地内で集めたツルを使ったリース、風で折れた木の枝を使ったキーホルダーの作成等、体験メニューは盛り沢山。リースの材料となるツルを集めたり、長い枝をのこぎりで切って、丁度良い長さにしたりするのは、参加した子ども達自身で行いました。竹を切る、枝に穴を空けるなど、小学生の力では足りないところは、我々大学生のメンバーがサポートし、自然の中での作業と一緒に楽しみました。

お昼頃、窯から甘い香りがしてきたところで、焼き芋の仕上げを確認しました。握ってみて柔らかければできあがりです。我々も一緒に焼き芋をいただきました。ほくほくで甘くておいしかったです。さらに、保護者の方々が豚汁を作ってくださいました！首都大産のしいたけや、ひなた緑地遊学会の方が栽培した里芋も入っており絶品でした。自然の中で活動した後には食べることで、より一層おいしく



▲焼き上がりを一緒に♪



▲クリスマスに向けて、リースを



▲多世代に渡って交流できました

参加学生にLINEしてみた。

松木日向緑地プログラムメンバー(20)

今月も活動お疲れ様でした！ここ2ヶ月の活動で感じたこと等、コメントをお願いします！

既読19



T

10月の文章を担当しました。生命科学2年のTです。竹を切る作業では、刃先を水平にする等、多くの集中力を要しましたが、その分高い竹を倒せた時、大きな達成感を感じられました！

12:08



N

11月の新聞を担当しました。人文社会1年のNです。炭焼き窯の火付けや花炭の作り方などの知識を得たのと同時に、子ども達の豊かな発想力に驚かされ、笑った有意義な活動でした！

12:16

コメントありがとうございます！来年も頑張っていきましょう(^.^)b

既読19

松木日向緑地プログラムとは

首都大学東京の奥地に存在する松木日向緑地で毎年九月から、月に一度程度、社会課題(下記参照)の解決を目的に学生主体で竹林整備の活動を行っています。さらに、伐採した竹(縁)を、利活用し、近隣地域の方々と交流(縁)等へと役立てています。プログラムの中には、ボランティア活

動の意義や社会の課題、背景を学ぶ事前学習と活動を多角的に振り返る事後学習があり、通常活動である竹林整備と連動した内容・構成になっています。



解決すべき社会的課題

- ・環境：里山の荒廃による生態系への悪影響
- ・文化：自然利用の技術・文化の伝承断絶
- ・地域：少子高齢化に伴う世代間交流やコミュニティの希薄化
- ・大学：豊かな緑地資源への認知度の低さ

編集後記

豊かな自然に囲まれ、心豊かになれるこの場所が紡がれていく幾つもの地域との繋がりが、これからも大切にしていきたいです。
リーダー：法学系・三年・

緑地川柳

緑から
育む縁の
実り時

編集発行
文章担当

首都大学東京ボランティアセンター (南大沢キャンパス 一号館一階)
電話 〇四二-六七七-二三五四 メール tnu-volunteer@njnu.ac.jp
地域ボランティアプログラム①「松木日向緑地プログラム」メンバー 人間社会学科一年・N